

マルメ研修 感想文

アップルデンタルセンター 歯科医師 平和田智佳

私がこのマルメ研修に参加した一番の理由は、歯科医療に従事する者として（さらに言えば、カリエスハイリスク期である U20 の子供たちを担当する Dr として）、カリオロジーをしっかりと学び直すことは必須であるし、この研修が非常にいい機会だと思ったからでした。

振り返ってみると、カリオロジーを学び直す機会になっただけでなく、素晴らしい先生方のご講演を生で拝聴し（しかも非常に楽しく！）、多くの知識・情報を得ることができた、非常に刺激的で濃い 5 日間でした。

今回のテーマは「糖と加齢」。

普段、砂糖制限やブラッシングのみに固執しがちな保護者・患者本人に対し、そこだけにならないように、フッ素など他の要素に目を向けてもらえるように、という指導を心掛けていた自分としては、「おや、糖か…」と思う部分が実は少しありました。しかし、いざ講義を受けてみると、保護者の視点を変えようとするあまり、逆にフッ素などに偏りがちになっていた自分の指導を見直すことができました。もちろん、フッ素の使用も大事ですが、何か一つ頑張ればう蝕を予防できるわけではなく、全体像を見て、それぞれのリスク因子のバランスを考えて、個々の患者さんの予防プログラムを立案していかなければならないということを改めて感じることができました。

その他、日常の診療で頭を悩ませることも多いカリエスの進行・介入時期について多くの知見を得られたこと、スウェーデンの歯科医療制度について勉強できたこと、マルメ大学内や公立歯科医療施設を見学できたこと、インプラント周囲炎についての知識を得られたこと…など、非常に多くの収穫がありました。

「全体像を見るのが大事。しかし、理解するにはパーツに分けることも大切。」とおっしゃった D Ericson 先生のお言葉が非常に印象に残っています。

また、同時に、多くの先生方がエビデンスとともに「直感」という言葉を口にしていたのも印象的でした。

エビデンスに基づいて、全体像を見て、個人個人に合わせて、診断・指導・治療・メインテナンスをすること。当たり前のことだが十分に実践できていなかった部分を見つめ直すことができ、新たな知識を得ることができたので、これをしっかりと咀嚼し、整理して定着させるとともに、今後も知識のアップデートを怠ることなく、日々精進し、患者さんに還元していきたいと思います。もちろん、型にはまることなく、直感も大切にしつつ。

最後に、今回ご講演下さった先生方を始め、この研修においてご尽力下さった皆様には、感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。